

村山ひでき

市政レポート

ひとをつなぐ まちをつくる

小金井市議会 「みらいのこがねい」 会派ニュース



コロナに負けるな！がんばろう小金井！ 第4回定例会 報告号

- 第4回定例会閉会：3つの補正予算議案を含む全議案を賛成多数で可決（12月21日）
- 「新庁舎建設に関し市長案と市民案の比較検討を求める陳情書」への反対討論
- 12月議会で可決された新型コロナウイルス感染症対策の補正予算ご報告
～高齢者 ICT 活用支援、アーティスト等支援、ワクチン接種事業の準備など

第4回定例会：全議案を賛成多数で可決し閉会！

追加補正予算総額 約8億4000万円超 12月議会だけで3回のコロナ対策補正予算を可決



実施設計まで進んでいる現在の新庁舎建設に対し、プロポーザルにも参加していない案を現行案と比較するなんて非常識！ 反対討論する村山ひでき(12月21日)

コロナ危機が起きた年として歴史に刻まれた 2020 年最後の定例会が閉会となりました。

感染拡大に歯止めがかからない中、最終日である 12 月 21 日に上程された一般会計補正予算(第 10 回)も含め、今議会では合計 3 件もの補正予算を審議し可決しています。多くが追加のコロナ対策となった補正予算の内容については裏面をご参照ください。

また、今議会では、一部の議員や市民団体が主張する新庁舎建設案(=いわゆる市民案)を現行案(=いわゆる市長案)と比較検討することを求める陳情が審査されていましたが、村山ひできは採決にあたり反対討論を行いました。

やっと実施設計まで進んだ新庁舎建設をストップさせるような検証作業は不要であると主張した内容は下記の通りです。ぜひご覧ください。

いろいろあった市議会も何とか閉会し、今年も残すところわずかとなりました。いまだ大変な状況が続きますが、皆様良いお年をお迎えください。

「市議会において、新庁舎と(仮称)新福祉会館建設に関し、市長案と市民案の比較検討を求める陳情書」

村山ひでき反対討論(抜粋)

「いわゆる市民案」は非常に不明確なものだ。まず、2018年9月18日に6会派12人の議員が、①清掃関連施設の敷地内暫定移設を行わない、②新福祉会館を先行竣工とする、③敷地東側の樹木を残す、④新庁舎の免震構造の地下の駐車場利用する、という4点を考慮した新たな施設配置の検討案を作成せよ！と求めた申し入れを市長が受入れた結果、現行の「いわゆる市長案」となった事実があるのに、申し入れを行った会派の議員から、「いわゆる市民案」との比較検証を求める声があがるのが私には全く理解できない。なぜなら、「いわゆる市民案」は清掃関連施設を敷地内で移設することが前提となっている。申し入れを行った議員は、「いわゆる市民案」を主張される方々に、清掃関連施設の敷地内暫定移設を行わない正当性を主張し、説得すべき立場のはずだ。今になって、清掃関連施設移転を前提とする「いわゆる市民案」も比較検討すべきと主張するのは、あまりに軽い発言である。

そもそも比較検証とはしっかりとした対案があってこそ可能だが、「いわゆる市民案」は、これまで正式な議会などの場で議論されたこともなく、市内に配布されている陳情者ならびに陳情団体のチラシをみると、**一方的に「建設工費は約16億円も安くなる」、「建設スケジュールは工事完了まで3ヵ月も短くなる」など、試算されたプロセス、具体的な根拠となるデータも示さずに主張した内容となっている。**これらを本格的に比較検証するには、予算も時間も必要だが、その検証の結果、やはり「いわゆる市長案」に優位性があった場合、その検証に費やしたコストは住民監査請求等に耐えられるとは思えない。

そして、何よりも反対する最大の理由は、正当かつ正式なプロポーザルの当選案を無視して、後から出てきた案を同じものとして比較検証すること自体が非常識だからである。もし、そんなことをしたらプロポーザル参加者から損害賠償請求されてもおかしくないし、あってはならないことだと考え反対する。

12月議会補正予算の新型コロナウイルス感染症対策ご紹介

小金井市では新型コロナウイルス緊急対応方針第1弾から第4弾までを策定し、医師会等との関係機関と連携した感染症対策、市民生活や事業者等の皆様を支える支援策に取り組んでいます。既に第3弾までの予算規模は特別給付金を除くと約21億円となっており、さらに12月議会では11月20日に公表された第4弾方針に基づき多くの追加支援策を3回の補正予算で予算化しました。主な事業をご報告いたします。

事業名	事業の内容
① 集団健診の個別健診化 (予算額: 2,984 千円)	感染リスク軽減のため、 乳幼児、1歳6か月、3歳児 の健康診査、歯科健康診査等の個別健康診査を実施する。
② 市議会議員選挙にむけた期日前投票所の設置 (予算額: 6,955 千円)	2021年3月21日に執行される小金井市議会議員選挙 で、坂下地域の前原町西之台会館(前原町3-8-1)へ新たな期日前投票所を設置する。
③ 高齢者 ICT 活用支援 (予算額: 535 千円)	地域活動継続のため オンラインで交流する技術の習得 を目指す高齢者(講座受講者)の受講料等を補助する。
④ 小中学校における感染防止 (予算額: 13,382 千円)	感染防止のための非接触式体温計、手袋、フェイスシールド、エアコン、空気清浄機等を購入する。
⑤ アーティスト等支援(第2弾) (予算額: 3,002 千円)	市内でプロとして文化芸術活動に携わるアーティストから WEB上で配信する動画作品を募集。応募要件を見直し対象を拡大。
⑥ 在宅要介護障がい者・高齢者緊急入院等事業 (予算額: 7,549 千円)	在宅で高齢者又は障がい者を介護する家族等がコロナに罹患した場合、要介護者の緊急入院の個室病床の通年確保、必要な検査と医療機関への移送に要した経費の補助をする。
⑦ 介護・障がい福祉事業所の職員と利用者へのPCR検査 (予算額: 100,536 千円)	市内の介護事業所及び障がい福祉事業所で積極的にPCR検査を行う。検査費用の自己負担額の全部か一部を補助(PCR検査20,000円/検査、抗原定量検査7,500円/検査を上限)。
⑧ 新型コロナワクチン接種事業 (予算額 182,067 千円)	国が製薬メーカーから確保したワクチンの接種ができるよう接種履歴の管理システム修正、パソコン機器、接種券等の印刷や発送を準備する。 現時点では2021年3月の接種開始を想定。
⑨ ひとり親世帯への臨時特別給付金の再支給 (27,430 千円)	低所得のひとり親世帯には既に臨時特別給付金の支給を実施しているが依然として厳しい状況である。基本給付の支給対象者に対して再度、同様の基本給付(再支給分)の支給を実施。

村山ひできプロフィール

- 1971年 新潟県南魚沼郡湯沢町生まれ
- 1990年 新潟県立長岡高等学校 卒業
- 1995年 明治大学政治経済学部 卒業
～衆議院議員(岩國哲人・城島正光)秘書
- 2005年 小金井市議会議員選挙に初当選
- 2013年 落選
～(株)ジェコム東京に入社し社員として勤務
- 2016年 復帰を決意し(株)ジェコムを退職
- 2017年 再び小金井市議会へ
民進党の解党とともに無所属に
現在、総務企画委員会の委員長を務める

《主な地域活動》

小金井阿波おどり振興協議会 専務理事
 小金井薪能 理事・警備委員長
 小金井市献血推進協議会 事務局長
 小金井市トライアスロン連合 事務局長
 子ども達を薬害から守る実行委員会 事務局
 名勝 小金井桜の会 会員
 明治大学校友会小金井地域支部 幹事
 小金井青年会議所シニアクラブ 会員
 はげの自然を大切にすの会 会員
 東京小金井ロータリークラブ 会員
 小金井明るい社会づくりの会 常任理事

村山ひでき事務所

〒184-0004
 小金井市本町 6-13-17
 サンライズ武蔵小金井 702
 TEL 042-386-5543
 FAX 042-386-5560
 携帯 090-3428-2715

✉メール

hideki@murayama.tv

WEBサイト

http://www.murayama.tv

Twitter

@Murayama_Hideki

Facebook

https://www.facebook.com/hideki.murayama.52